

Villa Rondo

Villa Rondo

No. 13-006-2010更新

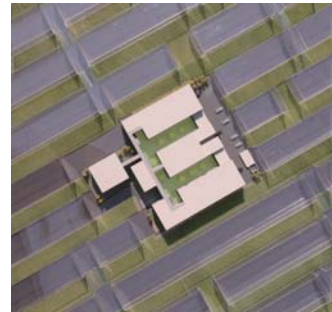
新築
集合住宅

発注者	第一生命保険相互会社	カテゴリー				
設計・監理	株式会社竹中工務店 TAKENAKA CORPORATION	A. 環境配慮デザイン	B. 省エネ・省CO ₂ 技術	C. 各種制度活用	D. 評価技術/FB	
施工	株式会社竹中工務店	E. リニューアル	F. 長寿命化	G. 建物基本性能確保	H. 生産・施工との連携	
		I. 周辺・地域への配慮	J. 生物多様性	K. その他		

自然と融和する都市生活 — 中層高密度生活集合モデル

住棟間に自然を取り込んだ配置計画

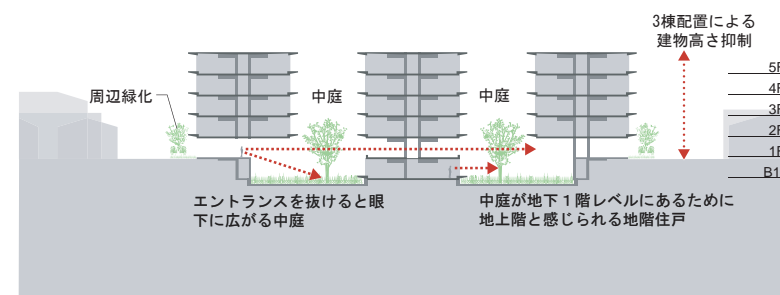
都市居住に要請されている新しいライフスタイルに応えた東京都心近郊の199戸の賃貸集合住宅である。この中層高密度にならざるを得ない住環境に対し、領域感や広さ感を丹念に工夫し、高密度環境における新しい普遍性を持った快適性を提案している。全体を南北軸に沿った並列の3棟に分け、中庭（自然）を住棟間に配置している。3棟に分散することで得られた各住戸のワイドフロントエッジな中庭側のバルコニー開口からは豊かな自然光が差し込み、中廊下を流れる南北軸の風も自然換気として利用している。



自然と住戸の都市スケールでの融合モデル



配置図：中庭を取り込んだ住棟配置



断面図



全面緑で覆われた中庭

プライベートグリーンとなる住棟間の中庭

住棟間の中庭は建物のエントランスを抜けると目前に広がり、自分の家の玄関に行き着くまで常に意識されるように配置されている。玄関扉を開けると、意識されつづけてきた中庭が自分の家のバルコニーの先に広がり、あたかも自分の庭にあるプライベートグリーンのように感じられる構成となっている。中庭がプライベートグリーンと感じられる原理は、ヴェニス水路と同じ構成原理を利用しており、中庭が、建物のエントランスを抜けた時に自分の立つ場所よりも低い、地下1階に配置されているため、誰も立ち入ることができないエリアと意識させ、その誰も立ち入れない中庭を、家に帰るまでの道行きや自分の家からいつでも眺められることで、プライベートな領域感を与えている。



誰も立ち入ることのできない
プライベートグリーンとして中庭

快適なプライベート空間を広げる工夫

1住戸の広さを単なる賃貸面積ではなく、住人が自分の領域と感じられるプライベート空間の広さと考え、住戸内においても様々な工夫を行っている。バルコニーを一般的なソファ座面の高さまで立上げることで、バルコニー全体をインテリアの一部に取り込み、さらに、対面する住戸との視線制御用の縦ルーバーをバルコニーの先端に取り付けることで、より囲われた緑側のような印象を与えている。また、バルコニーの先にプライベートグリーンが広がることで、意識としては対面する住戸の手前までは自分の領域と感じられる構成となっている。

設計担当者

建築：車戸城二、新城功雄、垣谷伸彦
構造：中山信雄、浜辺淳
設備：白鳥泰宏、渡部恭一、平井雅子

主要な採用技術 (CASBEE準拠)

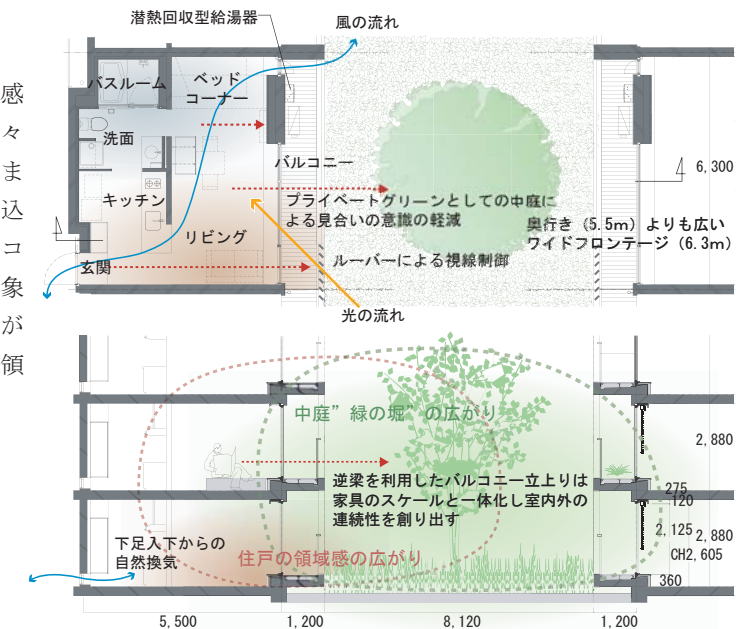
- Q3.2. まちなみ・景観への配慮 (建物高さ抑制、周辺緑化)
- LR1.2. 自然エネルギー利用 (自然換気、自然採光)
- LR1.3. 設備システムの高効率化 (潜熱回収型給湯器)
- LR3.3. 周辺環境への配慮 (建物ボリューム、緑化)



明るく風通しのよい居室空間



目前に中庭が広がる光溢れる地階住戸



空間の広がり感とプライバシーの感覚

建物データ	
所在地	東京都世田谷区
竣工年	2006年
敷地面積	4,872m ²
延床面積	9,982m ²
構造	RC造
階数	地下1階、地上5階

